

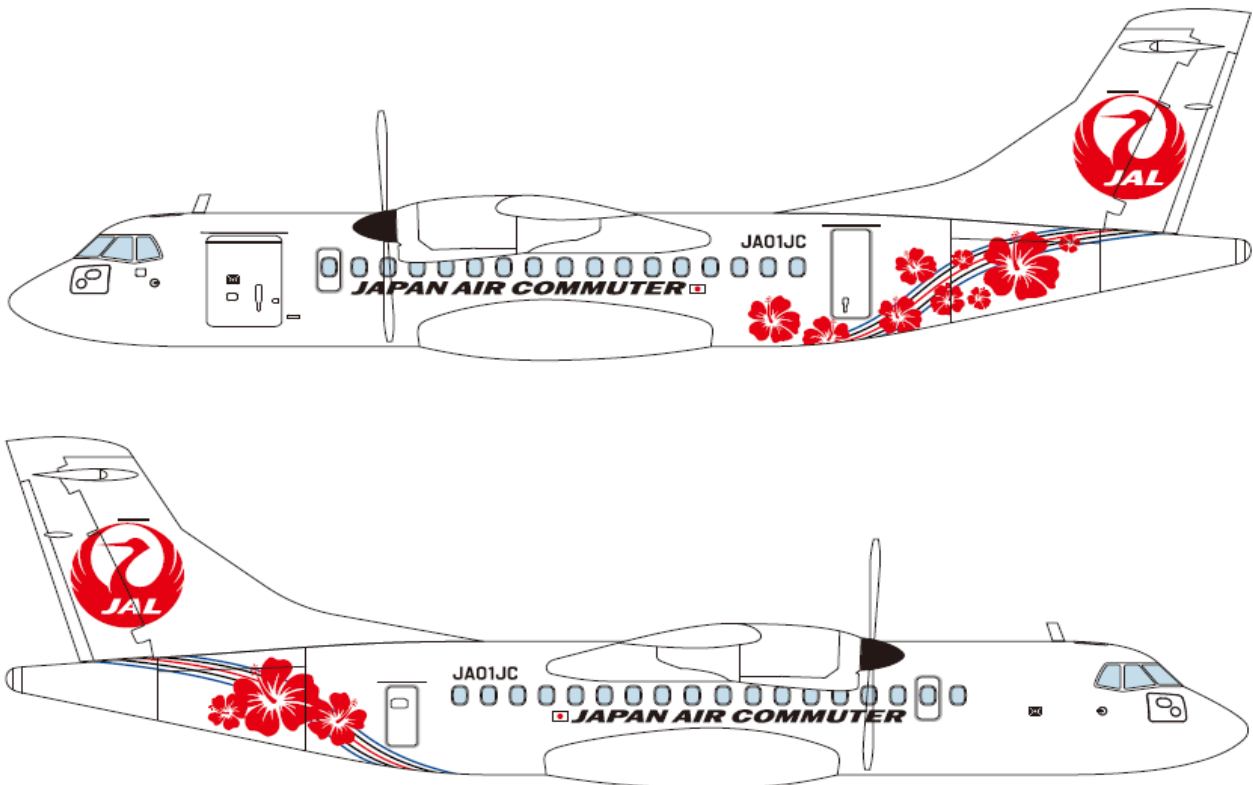
日本エアコミューター (JAC) の後継機 ATR42-600 型機の外装デザインを決定

2016年7月3日

JALグループの日本エアコミューター株式会社(「JAC」、本社：鹿児島県霧島市)は、2017年1月に初号機の受領を予定している新型機 ATR42-600 型機 (※1) の外装デザインを決定いたしました。

ATR42-600 型機は、JACの新型ターボプロップ機 (※2) として、JACの株主でもある奄美群島を中心とした鹿児島の島々と各地をつなぎ、地域の翼として地域の発展に貢献する使命を担います。そのミッションを印象的かつ明確にアピールするため、島々を象徴するハイビスカスを結の心を象徴する水引に見立てたラインでつないでいます。

このデザインは、JAC では初の試みとして、タラデザイン専門学校様 (※3) と共同で制作いたしました。タラデザイン専門学校様は JAC の本社所在の鹿児島で産学連携のデザイン制作に熱心に取り組んでいらっしゃることから、この度、両者のコラボレーションが実現しました。



(ハイビスカス) … JAC 就航の離島・地域の象徴 (多くの自治体で“市町村の花”) として、機体左側の大きなハイビスカスを鹿児島に見立て、そこから左下に広がる7つは鹿児島県空港所在の7離島。その他の機体右側にも配置されたハイビスカスは、ATR 型機がつなぐその他の地域を表しています。

(5本のライン) … “水引”のように、地域と地域、人と人を結び、さらに子供の夢、人々の想い、過去から現在と未来をも繋ぐことを表現。配色は、奄美大島にのみ生息するルリカケスの色(赤・黒・瑠璃色)を基調としています。ATR42-600 型機は、乗降口が機体後方であるため、お客様が搭乗の際により印象的に映えるデザインとなっています。



このデザインにより、就航地ご地元の方々にはより親近感・密着感を感じていただき、また観光などで域外から地域を訪れるの方々には、この地域を象徴するデザインが旅情を掻き立てることにより印象に残る旅を演出し、更なる情報発信につなげ、就航地域の活性化に貢献できるよう運営してまいります。JACの最新鋭ターボプロップ機 ATR42-600 型機の導入にどうぞご期待ください。

注釈)

- ※1 ATR42-600 型機・・・エアバスグループの ATR 社（本社：フランス国ツールーズ）製の最新鋭機で、JACは現在 8 機の確定発注を行っており、初号機は 2017 年 1 月の領収予定。
- ※2 ターボプロップ機・・・ジェット機と同じタービンエンジンでプロペラを回転させ、中短距離の路線や短い滑走路の空港において効率よく運航できる機材。
- ※3 タラデザイン専門学校（学校法人赤塚学園、隠塚敏郎校長、鹿児島市）・・・鹿児島で唯一のデザイン系総合専門学校として、商業デザイン科に 5 つの専門コースを設定し、デザインの現場で必要な「デザイン力」「専門知識」を身に付けると同時に、プロとして社会と関わって行くための「社会人基礎力」「コミュニケーション能力」「プレゼンテーション能力」の育成を行っている。産学連携の制作にも力を入れ、パンフレットやポスター、映像など在学生が制作した作品が企業多数採用されている。

以上